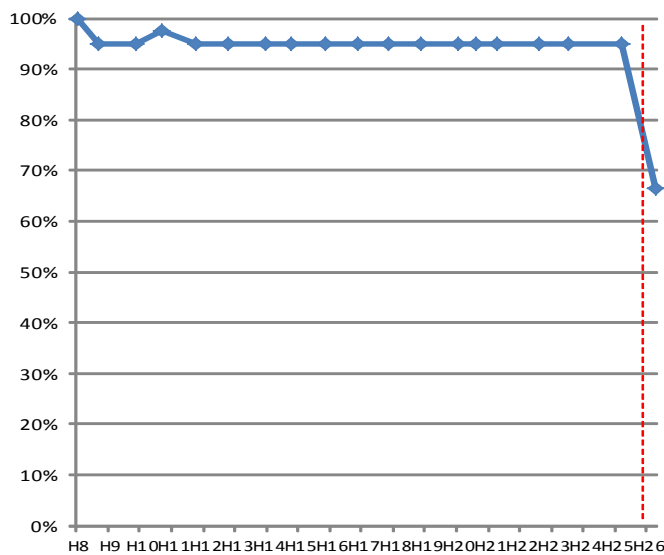


樹種名	ヤマガキ		
科 目	カキノキ科		
学 名	<i>Diospyros Kaki var. sylvestris Makino</i>		
分 布	本州（中、南部）、伊豆七島、四国、九州（対馬を含む）、国外では済州島、中国の暖帯および温帯に分布する。		
樹木特性	陽樹であり、山地に自生し寿命は長い。結実は実生で8年前後であるが、つぎ木では3年程度で実をつける。		
用 途	建築・器具材として利用。未熟の果実からは柿渋がとれる。	  	
植栽本数/面積 （植栽密度）	247 本／0.07ha （約 3,000 本／ha）		
特 徴	【樹 形】 落葉高木で幹は直立して多くの枝に分かれ、通常樹高 5~10m である。 樹皮は灰褐色で縦裂する。枝は灰褐色または灰白色である。 葉は広楕円形または倒卵形で急に尖り、全縁、下面には全体に褐色の毛が生えている。雌雄同株。葉の腋に黄緑色の短い花柄をもった花を開く。 果実は多肉の液果で球形、卵形または扁球形をなし、熟して黄赤色となる。種子は長楕円形で平たく、内に軟骨質の胚乳がある。		
試験地での様子	ポット苗を植栽し、病虫獣害も特にみられず、現存率、成長状況ともに良好である。植栽から 18 年が経過したが、平均樹高は 4m 強と成長量は比較的小さい。		
被 害	特になし。		

ヤマガキ 現存率



【現存率】

現存率は比較的高い。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 66.4%であった。

この他に当試験地内には樹齢が同一の自生したヤマガキが 1 本存在し樹勢は良い。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

緩やかに成長している。

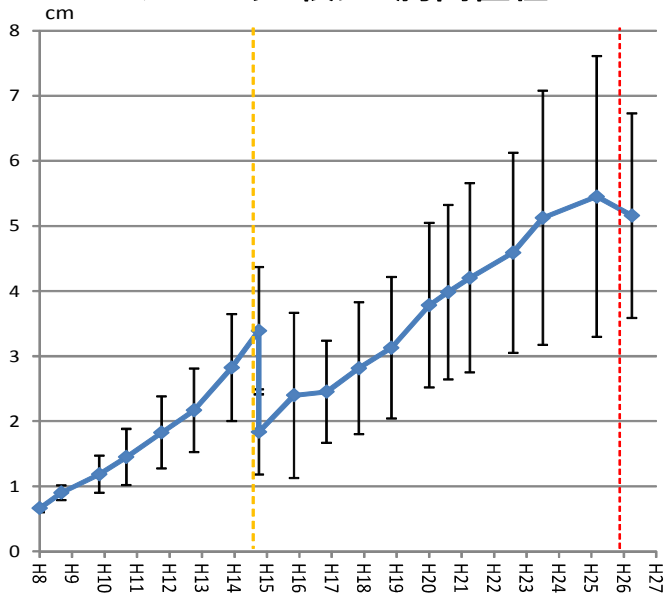
平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 5.16 cmであった。

この他に当試験地内には樹齢が同一の自生したヤマガキの胸高直径は 9.71 cmであり、植栽木より肥大成長が良好である。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ヤマガキ 根元・胸高直径



【樹 高】

緩やかに成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 4.48mであった。

この他に当試験地内には樹齢が同一の自生したヤマガキの樹高は 6.20m であり、植栽木より上生長が良好である。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ヤマガキ 樹高

